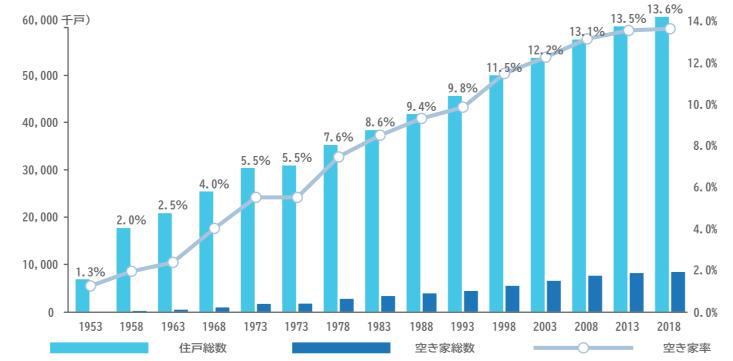


# 1 研究背景

本研究は現在の建築の在り方を考えたことか ら始まった。日本は現在、少子高齢化が進み出 生率低下や人口減少、様々な問題が懸念されて いる。中には大量の建築物が有り余っているに も関わらず賃貸住宅や高層ビルが増え続ける建 築過剰社会や空き家率の上昇など、建築に関わ る問題も存在する。特に空き家率は深刻である (右図参照)。

これらの問題は、より良い土地の使用用途や 有意性を潰しかねない現象ともいえるだろう。 そしてその使用用途や有意性を考えた時、これ らの問題や昨今流行を見せる新型コロナウイル スにより働き方や学びの支流となったリモート ワークやオンライン授業から居住区間が土着し ていることの必然性が薄れていると感じたこと が研究背景である。



空き家総数の推移(総務省「平成30年住宅・土地統計調査」をもとに作成)

### 研究目的

本研究では、「基礎などで土地と固定していない、移動することが可能な、最低限 の生活行為が行える定着度の低い空間」を「可動産建築」と定義する。 人類が狩猟採集社会から農耕社会へ転換し、土着し定住することを選択すると同時に 必然的に失われた「移動の自由」。技術の発展により住居は土着しない選択を得て、 土地には新たな使用用途が生まれる。人々は居住空間と共に「移動の自由」を手にす るなど、可動産建築の可能性を模索することを本研究の目的とする。



キャンピングカーやトレーラーハウスなども「可動産建築」に含まれる

## 3 研究方法

研究方法として上記で定義した可動産建築を、移動手段の最小サイズに近 い原動機付自転車をミニカー登録したものの上に実際に製作する。ちなみに 使用する原動機付自転車は本田技研工業株式会社のジャイロXである。この 原動機付自転車の可動産建築を「原付ハウス」と命名し、原付ハウスで私自 身が移動しながら生活を行う。

その生活の中で、可動産建築の実用性や実現可能性、改善点などを模索す るとともに、新たな建築、土地の在り方及び新たな生活様式を考える。この 製作や旅の様子は手記や動画などの手法で体験記としてまとめることによっ て、多くの人が閲覧できるようにする。

名前は「原付ハウス」だが厳密にはミニカーハウスである。これは積載制 限や制限速度の緩和により、本研究により適しているのがミニカー登録だっ たためである。原付とミニカーの法的な違いは右図にて比較する。



本研究で使用した原付(ミニカー登録)であるジャイロ X

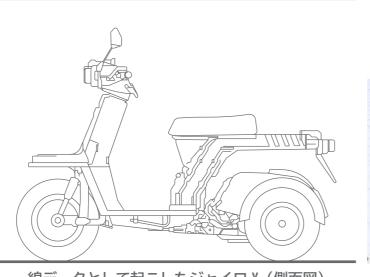
	原動機付自転車	ミニカー 普通免許	
運転免許	原付免許		
制限速度	法定速度 時速 30 k m	制限速度 時速 60 k m	
右折方法	基本は二段階右折	右折制限無し	
積載制限	30 kgまで 積載装置の長さ・幅+30 cm 以内、地上から 2m以内	90 kgまで 車両長さ ×1.1m以内、車体幅 以内、地上から 2.5m以内	
ヘルメット着用	ヘルメット着用は義務	着用不要(着用推奨)	

原付とミニカーの法的な違い

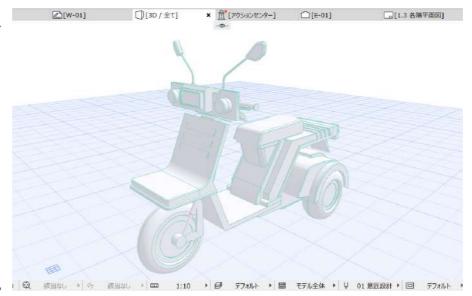
# 原付ハウスを製作するにあたって

製作するにあたり、図面と模型製作を行お うとしたがジャイロ X の図面も模型もないこ とが分かった。そのため最初はジャイロXを 採寸し図面・3Dに起こす作業から始まった。 起こした3Dモデルを3Dプリンターで印刷 することで 1/10 スケールのジャイロ X を量 産することが可能になり、作図・模型製作を 開始した。その図面と模型から必要な材料数、 費用、重量などを計算し、主に軽量化を重ね ていった。

原付ハウスは初号機から改良を重ねて6号 機まで考案された。次項からそれぞれ説明し ていく。



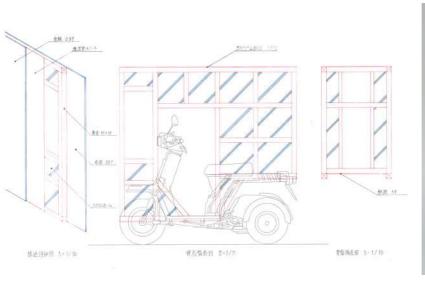
線データとして起こしたジャイロX(側面図)



製作したジャイロ X の 3D モデル



図面を基に製作された原付ハウス模型(左から初号機~5号機)







作品名 可動産建築の可能性と模索 ~原付ハウスによる移動空間の研究~

東北芸術工科大学 遠藤 悠

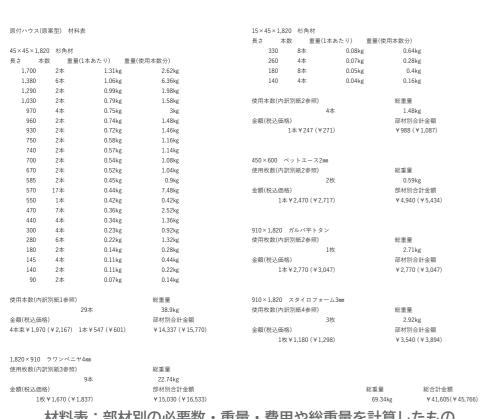
原付ハウス 初号機

校名

氏名

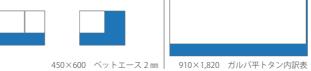
原案であり前例のない原付ハウスを実物でなくて も現実のモノにするために、頭の中に漠然とあった 「原付ハウス」を具現化したもの。

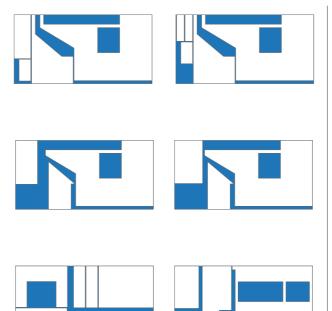
架空のものだった原付ハウスを「形にすること」 を優先したため、積載制限などの法律に関すること は考慮されていない。また、ハウス本体の重量は約 70 kgと走行できるものではなかった。

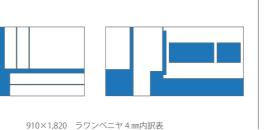


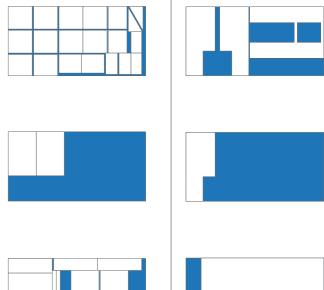
材料表:部材別の必要数・重量・費用や総重量を計算したもの

45×45×1,820 杉角材内訳表 15×45×1,820 杉角材内訳表







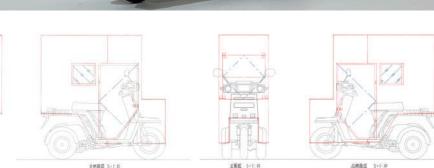


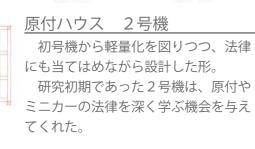
910×1,820 スタイロフォーム 3 mm内訳表 910×1,820 ラワンベニヤ 4 mm内訳表

材料内訳表:効率良く部材を取り出すために全パーツを当てはめた表

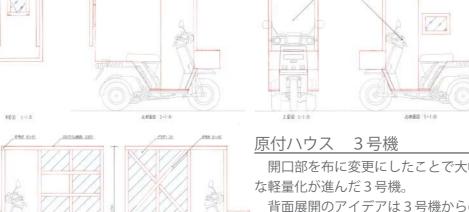
原付ハウス 2号機・3号機・4号機

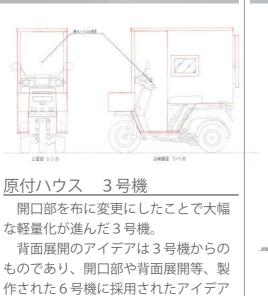






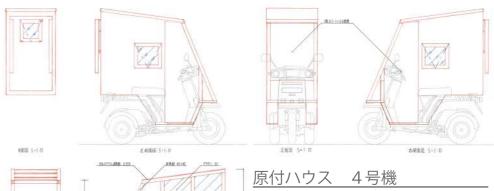


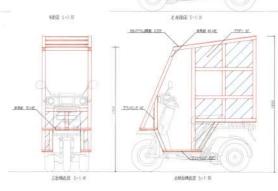




は3号機で提案されたものが多い。



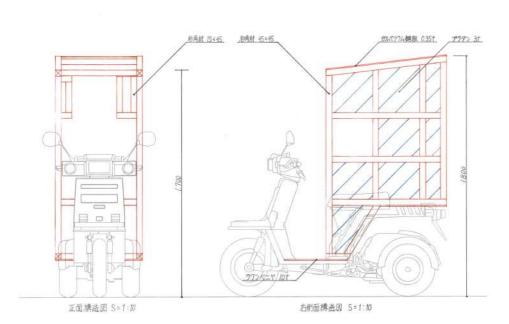




軽量化や法律以外のことにも着目し 始めた 4 号機。その大きな特徴は正面 からの空気抵抗を和らげるために、前 面構造から屋根にかけてついた傾斜。 また、傾斜によって背面の展開スペー スもより広く確保できるようになった。

原付ハウス 5号機

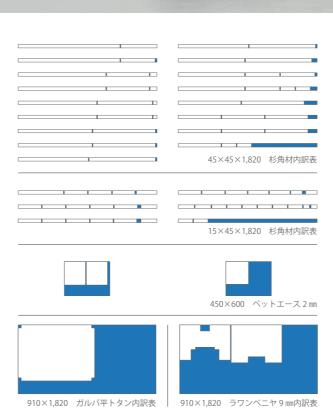
使服構造版 S=/ 10



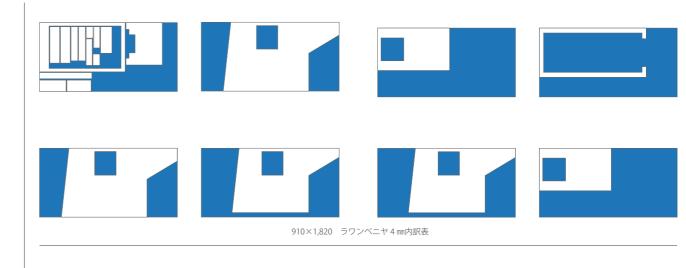
青色株造図 5-1:00

付ハウス(3	第五案型) 材	料表		15×45×1,820 杉角材	(II) 688/488-1860)	
4F 1 0:	20 杉角材			長さ 本数 重量(1本あ) 595 1本	たり) 重量(使用本数分)	
)×45×1,8, さ 本		(1+++1)	重量(使用本数分)	305 1本	0.15kg 0.15kg 0.08kg 0.88kg	
1.335	奴 里里 2本	(14のたり) 1.03kg	里重(使用本致分) 2.06kg	300 4本	0.08kg 0.32kg	
1,150	2本	0.88kg	1.76kg	285 1本	0.07kg 0.07kg	
	2本	0.79kg	1.58kg	270 3本	0.07kg 0.21kg	
970	2本	0.75kg	1.5kg	210 4本	0.05kg 0.2kg	
920	2本	0.71kg	1.42kg	190 8本	0.05kg 0.4kg	
870	6本	0.67kg	4.02kg	150 2本	0.04kg 0.08kg	
820	4本	0.63kg	2.52kg	80 2本	0.02kg 0.04kg	
720	2本	0.55kg	1.1kg		0	
560	9本	0.43kg	3.87kg	使用本数(内訳別紙2参照)	総重量	
475	1本	0.37kg	0.37kg	6本	2.35kg	
450	4本	0.35kg	1.4kg	金額(税込価格)	部材別合計金額	
190	4本	0.15kg	0.6kg	1本¥247 (¥271)	¥1,482 (¥1,630)	
90	2本	0.07kg	0.14kg			
50	2本	0.04kg	0.08kg			
				1,820×910 ラワンベニヤ4mm		
用本数(内訳別紙1参照) 総重量			総重量	使用枚数(内訳別紙2参照)	総重量	
		17本	22.42kg	8枚	13.54kg	
額(稅込価相	各)		部材別合計金額	金額(税込価格)	部材別合計金額	
本束¥1,970 (¥2,167) 1本¥547 (¥601)			¥8,427 (¥9,270)	1枚¥1,670(¥1,837)	¥13,360 (¥14,696)	
820×910	ラワンベニヤ	79mm		450×600 ペットエース2mm		
用枚数(内訳別紙2参照)			総重量	使用枚数(内訳別紙2参照)	総重量	
		1枚	3.02kg	2枚	0.58kg	
額(稅込価村	各)		部材別合計金額	金額(税込価格)	部材別合計金額	
1枚	(¥2,350 (¥2	,585)	¥2,350 (¥2,585)	1枚¥2,470(¥2,717)	¥4,940(¥5,434)	
				910×1,820 ガルバ平トタン		
				使用枚数(内訳別紙2参照)	総重量	
				1枚	1.48kg	
				金額(税込価格)	部材別合計金額	
				1枚¥2,770 (¥3,047)	¥2,770 (¥3,047)	





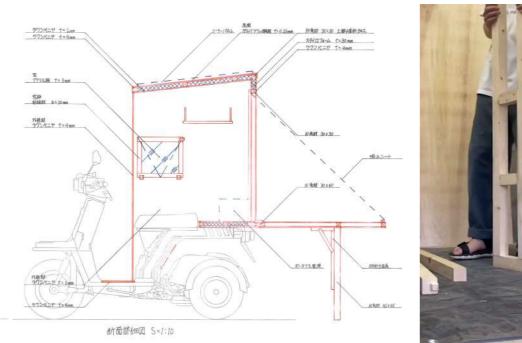






松角材 30×30

右側面構造図 S=1:10



5号機の構造体。見るからに部材が大きい。

 作品名
 可動産建築の可能性と模索 (品番 ) (名
 (品番 ) (品香 ) (

製作中の5号機構造があまりに重かったため、大幅な軽量化を図った6号機。

形は5号機のままだが、構造材を45×45 杉角材から30×30 杉角材へ変更するなど約10 kg軽量化。施工中も軽量化できる部分は軽量化し、約2か月の施工期間をへて完成。

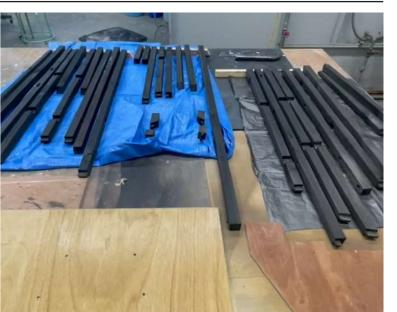
完成した6号機は重量28.3 kgと初号機の想定重量の半分以上の軽量化を果たした。

### 製作の様子

正面構造図 S=1:10











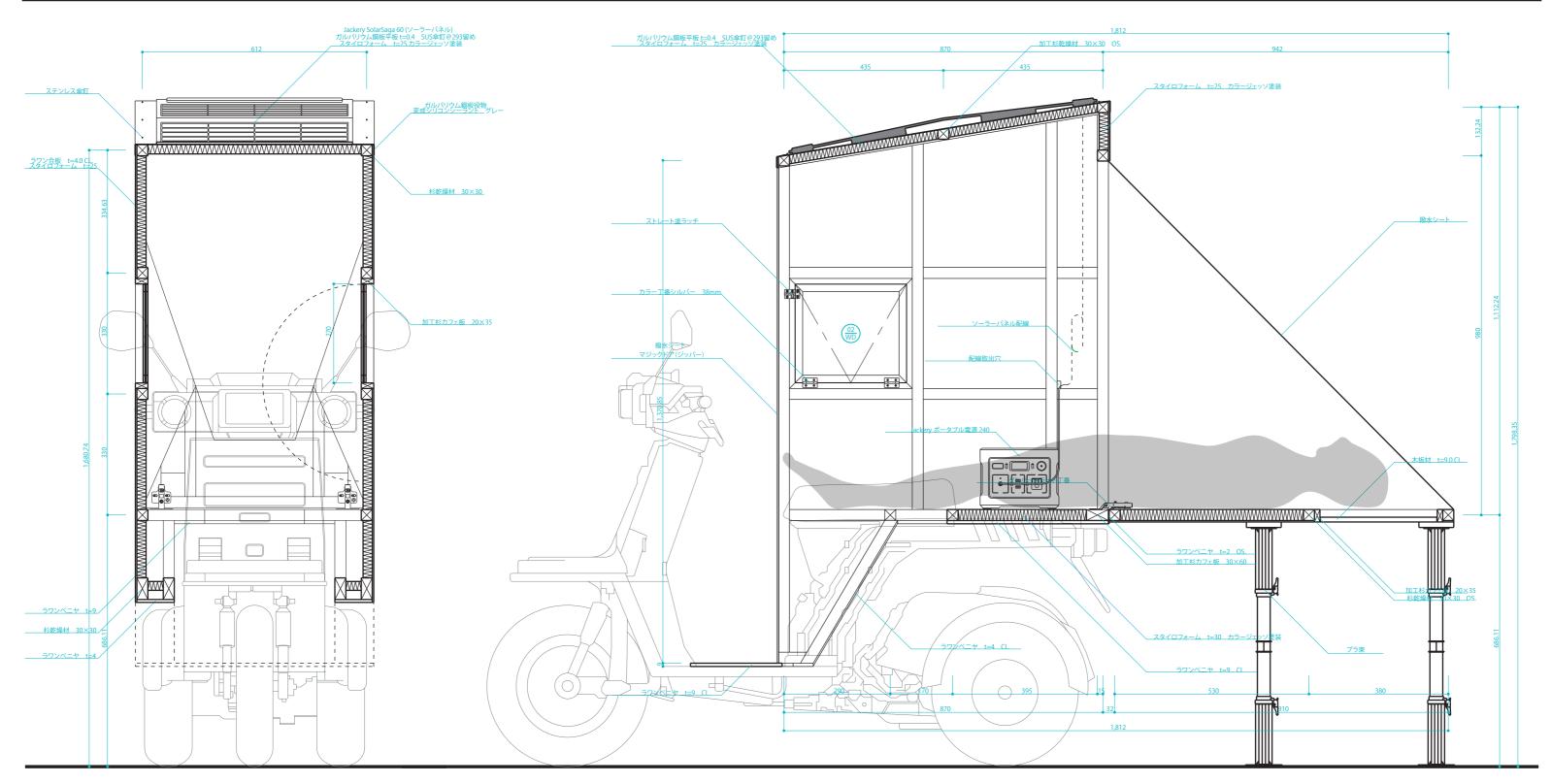




6号機への改良で大幅な軽量化に成功したものの、施工中も 軽量化を図った。仕上げの内壁を無くし、室内は構造と断熱材 に着色することで意匠とした。

背面支柱も施工時に変更した点である。図面上では6号機まで変更されることなく棚受け金具と角材で足とし、背面に固定する方法だったが、足場の安定性や高さ調節機能、軽さの面からプラ東を設置する方式とした。ハウスの展開や設置に少し時間はかかってしまうが、どこでも安定してハウスを展開できるようになった。

### 6号機 断面詳細図



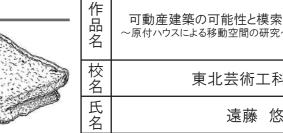
A-A断面図 S=1:10 B-B断面図 S=1:10

### 旅の持ち物

ハウス同様に、荷物もできるだけ少 なく軽い方が良いため、67アイテムを 選りすぐった。

67 アイテム全て重量を計り、アイテム 総重量は約15kg、私とハウスの重量も





~原付ハウスによる移動空間の研究~

品番

東北芸術工科大学 遠藤 悠



日記帳 イヤーロック 床束×2 マホ充電ケーブ pe-B充電ケー 支えスタイロ 自撮り棒 ackery充電器 320g パソコンケース 750g C充電ケーブル 179

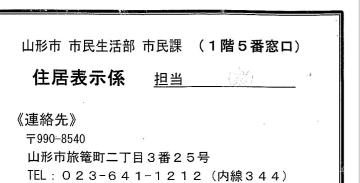
### 旅の確認

持ち物の他にも旅の準備を進め、まずは事故などが起きた場合 の責任を大学や担当教授に負わせたくなかったため、自身で「旅 が何かあった場合」という書類を準備、署名し残していった。要 約すると「この旅は全て自己責任である」。

そして完成した原付ハウスが公道を走っていいものなのかを山 形警察署・山形市役所・山形運輸支局に確認した。原付ハウスと いう前例のない試みということもあり、確認に時間はかかりつつ も結果として「ハウスも車体の一部である」とみなされ、公道で 走っても問題ないと判断された。

こうして旅に出る準備が整ったのであった。

FAX: 023-624-8411



市役所へ確認に行った際の書類

e-mail: shimin@city.yamagata-yamagata.lg.jp

# 旅で何かあった場合 令和 4 年 // 月 / 日 私は、東北芸術工科大学 建築・環境デザイン学科にて「可動産建築の可能性と模索」と 題して研究を行い、研究の一環として自身で製作した可動産建築にて旅を行うこととした。 その旅で万が一のことがあった時のために、この文書を残している。 先に、この旅は私遠藤悠の独断と意思で実行したものである。 東北芸術工科大学にて研究を行っている以上、万が一のことがあった場合、世間の目は東 北芸術工科大学及び建築・環境デザイン学科、担当教員である佐藤充准教授に責任があった とするかもしれない。しかし前述した通り、全て私の独断と意思で実行したものであり、こ の文書も私自身が書いている。責任は全て私にあることをここに記す。 東北芸術工科大学 建築・環境デザイン学科 4 年 学籍番号 201945042 氏名 表際 作

自分自身で準備した「旅で何かあった場合」への署名

### 旅の記録

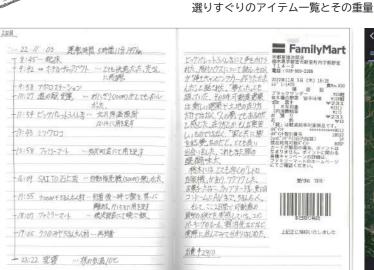
YouTube QR

Twitter QR

Instagram QR

記録(製作段階も含め)としてその日 のスケジュールや出費を日記に綴ると共 に、移動経路をグーグルマップのタイム ラインで記録した。

また原付ハウスでの生活を広く認知し てもらうため、可動産建築での生活様式 や研究を発信する「ぼくのたびにっき」 を YouTube・Twitter・Instagram にて開始。 製作や旅の様子を発信した。





1054

8,1338

28.3kg

15.075kg

102.675kg

移動の軌跡

≗ プロフィール

□ ブックマーク

プロフェッショナルツール

回 リスト





Twitter アカウント Instagram アカウント

# 6 旅の概要

### 2日に亘る仮宿泊

旅の軌跡

産建築の研究を進めた。

なのか知ることができた。

10月に原付ハウスが完成し、旅に出るというには躊 躇してしまう寒さが見え始めた。そこでキャンプ場と 大学駐車場で仮宿泊として一晩過ごしてみてから、旅 に出るかを判断した。

時期が10月下旬ということもあり、朝方の寒さは 中々に応えたが日中は快適だったため、旅に出ること にした。ただし「旅を楽しめなくなったら帰路につく」 という条件付きとし、結果として 11 月 2 日から 16 日 までの2週間の旅となった。

目的地は決めていなかったものの、東北よりも暖か いであろう関東を目指した。

原付ハウスが完成し、公道が走行可能という

確認も取れた後の 11 月 2 日~ 11 月 16 日まで

の2週間、原付ハウスと共に旅をしながら可動

行きは栃木県を通り東京へ向かい、帰りは茨 城県を通り海を見ながら帰った。そして 14日 目の福島北部でエンジンオイルの不足により

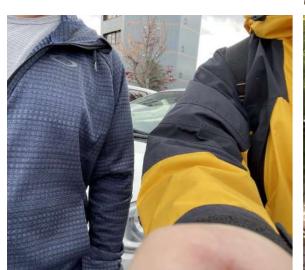
オーバーヒートを起こし、走行不能に。可動産 建築においてメンテナンスがいかに重要なもの



キャンプ場にて初の原付ハウス宿泊



10月29日 大学駐車場にて宿泊

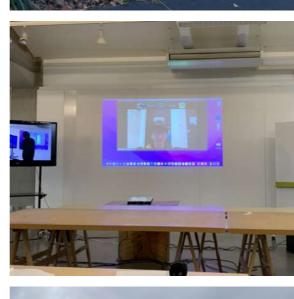








2週間に亘る旅の様子









福島県北部で原付ハウスがオーバー ヒートを起こし走れなくなったとこ ろを友人が迎えに来てくれた。

